

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520260

研究課題名（和文）

英米文学から見る「移動」と「変容」—エスニック・アイデンティティの多様化

研究課題名（英文）

“Movement” and “Changes” in English and American Literature—Multiplicity of Ethnic Identities

研究代表者

加藤 好文 (KATO YOSHIFUMI)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：70136779

研究成果の概要（和文）：英米の文学作品研究及び日英語のデータ分析等を通じて、多様な人々の「境界移動」が異文化接触・摩擦を引き起こすメカニズムに着目し、その結果生じる「文化変容」とアイデンティティの多様化の相関性に焦点を当てることにより、現代世界の多文化社会状況における〈多文化共生〉の指針が「周辺部」のマイノリティ文化にあることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：We have paid attention to the mechanism of cross-cultural impact and collision caused by “boundary movement” among numerous minority people against a dominant culture both by analysis of English-American literature and of Japanese-English languages. We have therefore focused on the correlations of “cultural changes” and multiplicity of identities as a result of “boundary movement.” We thus attribute the orientation of multicultural coexistence to minority culture in “the margins.”

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：英米文学、エスニシティ、アイデンティティ、マイノリティ、地域性

1. 研究開始当初の背景

今日の英語のグローバル化によって英語圏文学・文化研究が従来のオーソドックスなマジョリティ中心の分析では捉えきれず、多文化性・多民族性へのまなざしが必要となっていることは明らかであろう。さらに、今や日本を含めて世界の文化的ハイブリッド性についての研究も避けて通ることはできない。現代の世界はますます多民族多

人種の国々が増え、それに伴って、さまざまなエスニック・グループとの接触の拡大および相互理解の進展が世界にとっても、世界のなかの日本にとっても一層重要になっており、そのような認識が本研究開始の根本動機ともなっている。

整理すると、以下の2点が研究開始当初の背景である。

- (1) 英米文学・言語文化研究における多文化性・多民族性に焦点を当てた研究の重要性
- (2) グローバル社会での多様なエスニック・グループとの接触の拡大と相互理解の重要性

2. 研究の目的

世界の文化的ハイブリッド性という国際情勢のなかで、多文化性・多民族性に焦点をあて、英米言語文化・文学研究を展開する。本研究の統一テーマ「英米文学から見る『移動』と『変容』—エスニック・アイデンティティの多様化」の下に、地域的・文化的には「周辺部」に位置し、民族的には「マイノリティ」に属する文学作品を中心に分析し、併せて、作品中の〈言語形態の多様性〉にも考察を加えることにより、そのような「周辺性」や「エスニシティ」がいかにかにイギリスあるいはアメリカの「中心部」へと「移動」し、それぞれの地域がいかなる〈文化変容〉を起こし〈脱中心化現象〉を示しているか、具体的な事例を通して究明することを目的とする。

整理すると、以下の研究目的となる。

- (1) 英米文学における「マイノリティの言語文化」を中心とする「エスニック・アイデンティティ」の実相解明

3. 研究の方法

英米文学作品の文献研究とフィールド・リサーチの両面から「移動・変容・言語」の問題を考察し、英米における多様なアイデンティティの実相を明らかにする。特にアメリカについては以前の研究プロジェクト「カリフォルニア研究」から視野を広げ、カリブ海域と中南米を含めて、マージナルな領域の言語・文化の「境界移動」を考察する。文献研究からは、エスニック・アイデンティティが歴史的にどのように変化してきたかを辿り、フィールド・リサーチからは、特に現在における「移動」や「変容」の状況を調査し、未来までも展望した動的な実態を明らかにする。

研究代表者（加藤）は「アメリカ西部文学とエスニック・アイデンティティ」を中心テーマに掲げ、(1)アメリカ西海岸の文学・歴史文化からアプローチし、多文化社会アメリカにおける「周辺部」アメリカ西部の〈エスニシティと地域文化の変容の関係性〉を明らかにする。細部は以下の通りである。

- ① ジョン・スタインベック文学をエスニシティの観点から分析する。
- ② アジア系文学／日系文学と西部地域文化との影響関係について現地調査も交えて考察していく。
- ③ トシオ・モリやジョン・オカダなど日系アメリカ人作家に焦点を当てた文学・文献研究を行う。

研究分担者（林）は「南北アメリカ／アメ

リカス論への試み—アメリカ合衆国南部文学と南西部文学からのアプローチ」を中心テーマに据えて、(2)アメリカ南部・南西部文学からのアプローチをめざす。細部は以下の通りである。

- ① 南部文学における「ゴシック性」とカリブ海域における「バロック性」との共通点を念頭に、南西部ニューメキシコ作家ルドルフォー・アナヤの全作品とマルティニク出身のエドゥアール・グリッサンの批評との間に窺われる「関連性」を引き出す。
- ② 上記の作業で得られた知見—アナヤとグリッサンによる〈英語世界〉に代置されるべき世界像の提出を整理したものを基にして、合衆国ニューメキシコ州でフィールド・リサーチを実施する。
- ③ 〈アメリカス論〉として、「周辺部」側から〈文化変容〉の21世紀的意味を抽出することをめざす。

研究分担者（野崎）は「英語文学に見るイギリスの中の異文化摩擦」をテーマとして、(3)イギリス・英語圏文学からのアプローチをめざす。細部は以下の通りである。

- ① 日系のカズオ・イシグロの文学研究を中心に行う。
- ② 中国系作家エイミ・タンの文学研究を中心に行う。
- ③ イギリスと日本、イギリスと旧植民地という二つの文化を背景に持つ作家の作品分析を通して、〈多文化社会イギリスにおける異文化摩擦〉の問題を解明する。

研究分担者（木下）は「日系米国移民の会話スタイルとエスニック・アイデンティティ」を中心テーマとして掲げ、(4)英語コミュニケーションからのアプローチを試みる。細部は以下の通りである。

- ① 文学作品を分析対象として日系移民の語法に見られる日本語からの「語用論的転移」の諸特徴を明らかにする。
- ② 日系移民の会話スタイルが彼らに対する「民族的ステレオタイプ」とどのように関わるかを明らかにする。
- ③ 日系移民たちの会話スタイルと日本人英語話者のそれとの比較を行い、〈異文化間摩擦回避〉の方途として日系人たちが自らの会話スタイルから消し去った特徴、また、自らのアイデンティティの拠り所として残した特徴は何かを明らかにする。

4. 研究成果

- (1) エスニック・アイデンティティの観点か

らみたジョン・スタインベック文学及び日系アメリカ文学・文化研究

①ジョン・スタインベック文学と日系アメリカ人の歴史文化に焦点を当てて取り組んだ。成果として、スタインベック関係図書の揃ったボール州立大学（インディアナ州）に招かれて文献研究を進めることができ、さらに日系アメリカ人の収容所体験を文化的視点から解明した。

②アメリカ西部地域の歴史・文化と日系文学との関わりについて、文献・作品研究のみに止まらず、現地調査も交えて考察した。成果として、日系アメリカ人の収容所体験がそのエスニック・アイデンティティの核として起動すること、その一方で、アメリカ合衆国としての国家的理念は個々のエスニシティを希薄化させる方向性を持つことを明らかにした。

③アメリカ西部文学の特徴について、地域文化との関係性の観点から分析した。特に、日系人の二世作家ジョン・オカダやヒサエ・ヤマモト、三世のジュリー・オオツカなどの作品研究を通じて、アメリカにおける戦争／収容所体験に関わる記憶／伝承の場と国家的記念碑の意味を明らかにすることができた。さらにドイツ人とアイルランド人の血を引く作家ジョン・スタインベック文学のカリフォルニア地域文化との接点を、新たにカリフォルニア・ミッションの視点から解明した。

(2) アメリカスの視点からのアメリカ南西部文学研究

①アメリカスの視座から19世紀アメリカの作家PoeとMelvilleの作品における実験性を取り上げ、両者にみられるエスニック・アイデンティティの様相を追究した。その成果として、筆者は、PoeとMelvilleは19世紀アメリカにおいて20世紀の南西部における〈アメリカス〉の問題を先取りしていたことを明らかにした。

②アメリカ南西部文学のエスニシティ研究を文献資料のみならず南西部のニューメキシコ州とアリゾナ州でのフィールド・リサーチを通して続行した。その成果として、アメリカ主流文学との文化差が歴然としている南西部文学におけるスペイン語圏文化の特色を把握することができ、今後の研究「エスニシティをめぐるアメリカ文学とアメリカス文学」への糸口を見出した。

③アメリカ南西部でのフィールド・リサーチを踏まえ、エスニック・アイデンティティの多様化現象を文学における心と詞との相関性としてまとめた。

(3) 旧イギリス植民地の歴史文化的文脈での日系イギリス文学研究

①カズオ・イシグロの小説手法の独自性を、イギリスのインド系作家サルマン・ラシュデー

イやアメリカの中国系作家エミ・タンとの比較から考察し、英米の社会に少数者として生きるアジア系作家に見られる特殊性を幻想性という点に焦点を当てて分析した。

②インド出身のサルマン・ラシュデーや日本出身のカズオ・イシグロなど、イギリスにおける非主流の民族的、文化的背景を持つ英語作家の作品を現地調査も交えて考察し、その語り的手法や現実の表現法などに独自性が見られることを明らかにした。

(4) ハワイ日系言語文化の文脈での日系米国文学研究

①haoleとkotonkに焦点を当て、ハワイ日系人の使用例を分析することによって、これらの他者言及表現が状況づけられた談話において構築するアイデンティティの諸相について論じた。その結果、言語によって付与される社会的カテゴリーが会話参加者のエスニシティを動的に表現することを明らかにした。

②第二次世界大戦退役軍人であるハワイ日系二世を対象とした回顧インタビュー・データに見られる談話の優先・非優先応答の特徴を分析することで、ハワイと米国本土出身の日系人兵士の間にかつて存在したとされる軋轢をめぐる話者のアイデンティティの捉え方の違いを解明した。

③日系米国人作家Milton Murayamaの小説*Plantation Boy* (1998)において主人公Toshが用いた蔑称Bulaheadに焦点を当て、ハワイ日系二世のアイデンティティを語法の点から考察した。同蔑称の用例をコンテクストとの関わりで分析した結果、第二次世界大戦前後の時代背景を反映する形で、Bulaheadが「敵国人」や「移民労働者の子」などハワイ日系二世の多様なアイデンティティを表すことを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9件)

- ① 加藤好文、スタインベック初期作品のミッション表象、「英米文学から見る「移動」と「変容」」研究成果報告書、査読無、2012、pp.5-21
- ② 林康次、流謫のアメリカ文学から魔法のアメリカス文学へ、「英米文学から見る「移動」と「変容」」研究成果報告書、査読無、2012、pp.41-125
- ③ 木下英文、*Plantation Boy*に見られるハワイ日系人のアイデンティティ、「英米文学から見る「移動」と「変容」」研究成果報告書、査読無、2012、pp.23-39
- ④ 木下英文、*All I Asking for Is My Body*に見られるハワイ日系人のアイデンティティ、愛媛大学法文学部論集・人文学科編、査読無、2012、pp.75-89

- ⑤ 野崎重敦、カズオ・イングロの物語の手法について、愛媛大学法文学部論集人文学科編、査読無、2011、pp.67-81
- ⑥ 加藤好文、アメリカにおける史跡保存と「巡礼」の文化的意義—日系アメリカ人収容所跡地をめぐって、愛媛大学法文学部論集人文学科編、査読無、2010、pp.67-81
- ⑦ 林康次、ポウとメルヴィルの〈アメリカス〉のロマンス—「北」と「南」の衝突、愛媛大学地域創成研究年報、査読無、2010、pp.35-66
- ⑧ 野崎重敦、『ジョイ・ラック・クラブ』の幻想性について、愛媛大学法文学部論集人文学科編、査読無、2010、pp.151-166
- ⑨ 木下英文、Kotonk 使用に見られる日系米国人のアイデンティティについて、愛媛大学法文学部論集人文学科編、査読無、2010、pp.23-36

〔学会発表〕(計 1 件)

- ① 加藤好文、スタインベック初期作品と文化的景観、日本ジョン・スタインベック協会、2010.5.31、京都府立医科大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 好文 (KATO YOSHIFUMI)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：70136779

(2) 研究分担者

林 康次 (HAYASHI KOJI)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：60036449

野崎 重敦 (NOSAKI SHIGEATSU)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：90189390

木下 英文 (KINOSHITA HIDEFUMI)
愛媛大学・法文学部・准教授
研究者番号：40225008

(3) 連携研究者

該当無し